

第22回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	大和ハウスライフサポート株式会社	施設名	もみの樹・渋谷本町
発表タイトル	心と生活に寄り添いながら ～A様が安らげる場所を提供したい 日々穏やかに過ごす為の支援～		
研究の目的	認知症高齢者の睡眠問題は「BPSD」を引き起こす要因となり、本人の QOL の低下にも影響を与える。日中の活動量の増加や夜間帯の排泄コントロールが睡眠効率にどう影響を与えるのか、また睡眠効率の上昇により「BPSD」は軽減するのかを対象者 A 様を通して考察したので報告する。		
発表の概要	<ul style="list-style-type: none"> ①施設概要 ②対象者紹介 ③取り組み内容 ④取り組み結果 ⑤考察・まとめ 		
研究方法	対象期間は令和3年3月25日から同年9月30日。この期間を入居期・変化期・安定期の3つに分類し、【①「眠リスクャン」を用いた睡眠状況】【②体操参加率】【③アクティビティ参加率】の3点で推移を評価した。		
成果・結果	<p>入居期は睡眠効率31%、体操参加率10%、アクティビティ参加率12%であった。</p> <p>変化期は睡眠効率46%、体操参加率45%、アクティビティ参加率40%であった。</p> <p>安定期は睡眠効率61%、体操参加率76%、アクティビティ参加率85%と大幅な改善が見られた。</p> <p>また、12名の介護職員の介護負担尺度の平均値が開始前は27点であったのに対し、取り組み後は12点とこちらも大幅な改善が見られた。</p>		
考察	日中の活動量の増加と夜間の排泄コントロールが睡眠効率に良い影響を与えることがわかった。また、睡眠の質を睡眠効率として数値化することで、より具体的に A 様の状態を把握することができ、今後も「眠リスクャン」を活用したケアを行いたい。		
アピールポイント 伝えたいこと	日々のケアを「眠リスクャン」という IT・ICT 機器を用いながら評価する、これからの介護に通ずる研究だと考えます。		